

2023年度版 環境経営レポート



発行年月日 2024年 8月 30日

株 式 会 社 響 建 設

目 次

1. 組織の概要
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日
3. 環境経営方針
4. 環境経営組織体制
5. 環境経営計画への取組の全体概要
6. 環境経営目標
7. 環境経営計画
8. 環境経営目標の実績
9. 環境経営計画の取組結果とその評価
10. 次年度の取組内容
 - （1）環境経営目標
 - （2）環境経営計画
11. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
12. 代表者による全体評価と見直し・指示

発行日： 2024年 8月 30 日

発行責任者：環境管理責任者 丁野 正明

次回発行予定： 2025年 8月 頃

1. 組織の概要

【事業所名】 株式会社 響建設

【代表者氏名】 代表取締役社長 丁野敏明

【所在地】

本社 〒780-8052 高知市鴨部1丁目22番24号
倉庫 〒780-8052 高知市鴨部1丁目21番5号

【環境管理責任者氏名及び担当者連絡先】

環境管理責任者氏名	常務取締役	丁野 正明
連絡先担当者	総務課	山本 里子
	総務課	吉本 加菜
	工務課	起塚 隆史
	営業課	嶋川 忍

連絡先 T E L (代表) : 088-844-7300
 F A X : 088-844-5366
 E - m a i l : info@hibiki-cc.jp
 HPアドレス : <http://www.hibiki-cc.jp>

【事業活動の内容についての簡単な記述】

建設業（主に建築工事）

建設業許可

許可番号	高知県知事 許可(特-4)第1635号			
許可年月日	令和4年6月14日～令和9年6月13日			
建設業の種類	土木工事業	建築工事業	大工工事業	左官工事業
	とび・土工工事業	屋根工事業	タイル・れんが・ブロック工事業	
	鋼構造物工事業	舗装工事業	塗装工事業	防水工事業
	内装仕上工事業	建具工事業	解体工事業	

ZEH・太陽光発電システムの販売

【事業規模】

設立年月日 1970年4月16日設立
資本金 2,000万

	2021年度	2022年度	2023年度
製品生産量・出荷額（売上高） （千円）	1,517,868	1,057,720	1,236,550
従業員数（名）	21	21	21
本社事務所床面積（㎡）	586.18	586.18	586.18
本社東側駐車場（㎡）	634.07	634.07	634.07
鴨部倉庫資機材置場床面積（㎡）			270.59

※従業員数 毎年6月末日

会計年度 2023年7月 ～ 2024年6月

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

【対象範囲（認証・登録範囲）】

株式会社 響建設 全社(全組織、全活動)

本社 〒780-8052 高知市鴨部1丁目22番24号

倉庫 〒780-8052 高知市鴨部1丁目21番5号

【事業活動】

特定建設業

(土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工工事業、
屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、
防水工事業、内装仕上工事業、建具工事業、塗装工事業、解体工事業)

ZEH・太陽光発電システムの販売

【レポートの対象期間】

2023年7月～2024年6月

【環境経営レポートの発行日】

2024年8月30日

【作成責任者】

環境管理責任者

常務取締役 丁野 正明

3. 環境経営方針

【環境経営理念】

当社は、常に新しい発想で世の中のニーズに合い、社会で必要とされる企業を目指します。
地域社会及び関わる人(社員とその家族・取引先・顧客)を幸せにし、全ての人の
心に響く企業を目指します。
この経営理念に基づき、環境保全活動に全社一丸となって自主的、積極的に取り組みます

【行動指針】

1. 具体的に次の項目に取り組みます。

- ① 電灯、冷暖房等の消費電力の削減を行い、二酸化炭素の排出量の削減
- ② 車両運転時のエコドライブ推進
- ③ C L T 構造による高気密高断熱の建物の設計提案をし、環境に配慮した建設工事を推進
- ④ 自然エネルギーを活用した仕組みの提案
- ⑤ ゼロエミッションの推進
- ⑥ 水使用量の削減
- ⑦ グリーン製品購入を推進し環境配慮への取組

2.全社員に「環境理念」「基本方針」を周知徹底し、環境に対する重要性の意識を高めていきます。
環境活動レポート等、環境情報については社外に公表します。
社会貢献活動に積極的に取り組んでいきます。

3. 遵法

環境関連法規並びに条例等を遵守します。

4. 環境経営目標および環境経営活動を定め、定期的に見直し、継続的改善に取り組みます。

制定日 平成25年8月20日

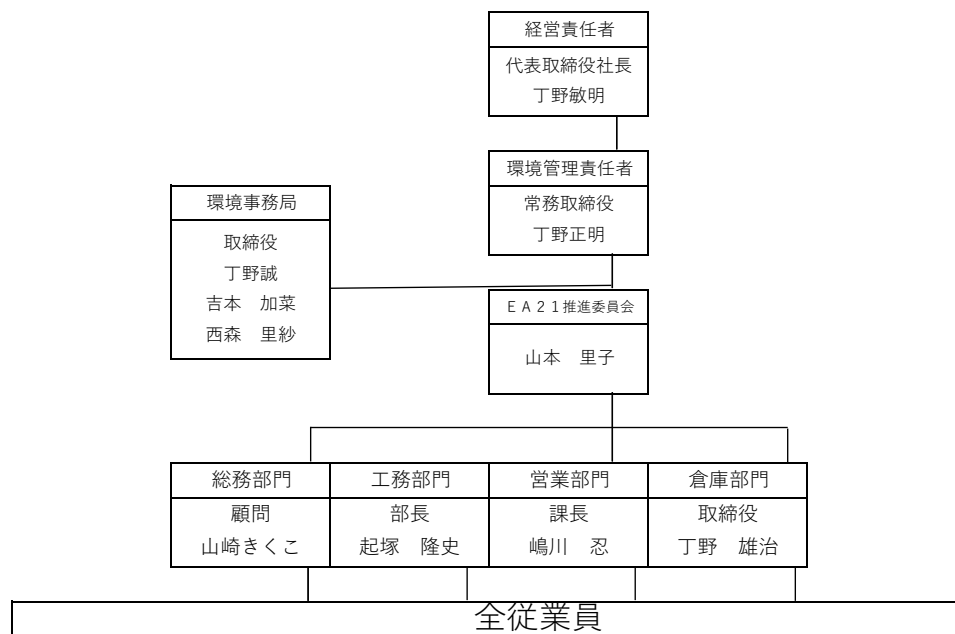
改定日 令和元年7月1日

株式会社 響建設

代表取締役社長

丁野敏明

4. 環境経営組織体制



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能・技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標、環境経営計画・環境経営組織体制を承認 ・代表者による全体評価と見直し実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標、環境経営計画・環境経営組織体制を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、E A 2 1 委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画・環境経営組織体制原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開
部門長	・自部門における環境経営方針の周知、従業員への環境教育訓練実施 ・自部門に関する環境経営計画の実施、達成状況報告 ・自部門に関する緊急事態訓練の実施 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められた事を守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

5. 環境経営計画への取組全体概要

<概要>

本業である建設を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

◆ 二酸化炭素排出量の削減
電力の削減、自動車の燃料使用量削減

◆ 一般廃棄物排出量削減
電子化によるペーパーレス化

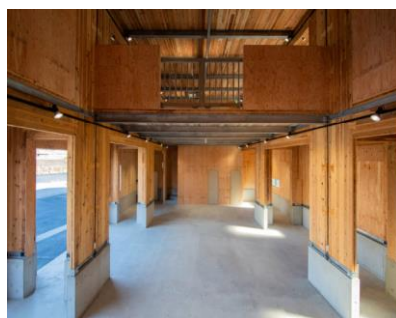
◆ リユース
再利用を行い、資源を有効に活用する

◆ 有害物質の排除
有害化学物質の排除、また健康への影響を配慮して使用制限を守る

◆ 働きやすい環境の整備
事務所、現場の整理・整頓・清掃・清潔・静

◆ 周辺環境への配慮
近隣地域の生活環境への配慮をする

◆ 環境に配慮した建設工事を推進
CLT構造による高気密・高断熱の建物の設計提案をする



6. 環境経営目標

(2023年度)

(1) 単年度目標

(2023年度目標の場合)

-2%

項目	総量・原単位	単位	基準年 2021年度 2021.7-2022.6	2023年度 目標 2023.7-2024.6
売上高		百万円	1,517	1,300
燃料使用量				
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	22,037	21,596
	原単位	(ℓ/百万円)	14.53	16.61
灯油使用量	総量	(ℓ)	66	65
	原単位	(ℓ/百万円)	0.04	0.05
LPG使用量	総量	(m ³)	0.2	使用量が少ないため2～3m ³ の間 で納めるようにする
	原単位	(kg/百万円)	-	-
電力使用量	総量	(kWh)	43,447	42,578
	原単位	(kWh/百万円)	28.64	32.75
CO ₂ 排出量	総量	(kg-CO ₂)	72,522	71,072
	原単位	(kg-CO ₂ /百万円)	47.81	54.67
水使用量	総量	(m ³)	175	172
	原単位	(m ³ /百万円)	0.12	0.13
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	485	475
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.37
産業廃棄物排出量	総量	(t)	2,276	2,230
	原単位	(t/百万円)	1.50	1.72
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	96.3	94
グリーン購入	総量	(%)	92	全期間において60%以上
環境に配慮した工事	総量	(%)	100	100
社会貢献活動	総量	(回)	25	25

- ・基準値の値は2021年度(2021年7月～2022年6月)の実績値とする
- ・2023年度目標値は、2021年度から-2%とする。
- ・社会貢献活動は、2回/月以上とし、年間24回以上とする。
- ・電力のCO₂発生量については、電気事業者別のCO₂排出係数(2020年度実績)
(2022年1月7日公表)の四国電力の調整後排出係数0.574(kg-CO₂/kWh)を使用した。
- ・グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合(%)

(2023年度)

(2) 中長期目標

項目	総量・原単位	単位	2021年度 実績(基準年)	-3%	-4%	-5%
				2024年度 目標	2025年度 目標	2026年度 目標
売上高		百万円	1,517	1,300	1,300	1,300
燃料使用量						
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	22,037	21,376	21,156	20,935
	原単位	(ℓ/百万円)	14.53	16.44	16.27	16.10
灯油使用量	総量	(ℓ)	66	65	63	63
	原単位	(ℓ/百万円)	0.04	0.05	0.05	0.05
L P G 使用量	総量	(m ³)	0.2	使用量が少ないため2～3m ³ の間で納めるようにする		
	原単位	(k g /百万円)	-	-	-	-
電力使用量	総量	(k W h)	43,447	42,144	41,709	41,275
	原単位	(k W h/百万円)	28.64	32.42	32.08	31.75
C O ₂ 排出量	総量	(k g - C O ₂)	72,522	70,347	69,622	68,896
	原単位	(k g - C O ₂ /百万円)	47.81	54.11	53.56	53.00
水使用量	総量	(m ³)	175	170	168	166
	原単位	(m ³ /百万円)	0.12	0.13	0.13	0.13
一般廃棄物排出量	総量	(k g)	485	470	466	461
	原単位	(k g /百万円)	0.32	0.36	0.36	0.35
産業廃棄物排出量	総量	(t)	2,276	2,208	2,185	2,162
	原単位	(t /百万円)	1.50	1.70	1.68	1.66
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	96.3	全期間において90%以上		
グリーン購入	総量	(%)	92	全期間において60%以上		
環境に配慮した工事	総量	(%)	100	100	100	100
社会貢献活動	総量	(回)	25	2回/月以上とし、年間24回以上		

- ・ 2021年度(2021年7月～2022年6月)実績値を基準とする
- ・ 2024年度-3%、2025年度-4%、2026年度-5%を目標値として設定する。。
- ・ 電力のC O₂ 発生量については、電気事業者別のC O₂ 排出係数(2020年度実績)
(2022年1月7日公表)の四国電力の調整後排出係数0.574(kg-C O₂ / k W h)を使用した。

7. 環境経営計画・当年度

(2023年度)

期間： 2023年 7月 ～ 2024年 6月

項目		活動内容	担当者	期間
C O 2排出量削減	燃料使用量削減	○排出ガス対策型建設機械の使用推進	工務部門 起塚	2023年 7月 ～ 2024年 6月
		○計画的な運行計画	工務部門 起塚	
		○重機のエコモード運転の実施	工務部門 起塚	
		○エコドライブの徹底	工務部門 起塚	
		○車両の定期点検整備の実施	工務部門 起塚	
	電力使用量削減	○昼休憩時の電気消灯の徹底	総務部門 山崎	
		○クールビズ・ウォームビズ活動	総務部門 山崎	
		○空調の適温化の徹底(冷房28℃暖房20℃)	総務部門 山崎	
		○O A 機器の不在時電源O F F	総務部門 山崎	
		○ブラインドやカーテンの利用で熱の出入りを調整	総務部門 山崎	
	○部分的な照明の使用	総務部門 山崎		
水使用量削減	○食器のまとめ洗い	総務部門 山崎		
	○漏水点検	総務部門 山崎		
	○蛇口の閉め忘れ等の確認	総務部門 山崎		
廃棄物削減	一般廃棄物	○電子化による紙使用の低減	総務部門 山崎	
		○裏紙への再利用(社内文書のみ)	総務部門 山崎	
		○分別化の徹底	総務部門 山崎	
		○再生紙の使用	総務部門 山崎	
	産業廃棄物	○廃棄物の分別の徹底	工務部門 起塚	
		○余剰がなるべく出ないような発注	工務部門 起塚	
		○産業廃棄物保管場所	工務部門 起塚	
		○多量排出事業者 産業廃棄物処理計画書の提出	工務部門 起塚	
グリーン購入	○エコマーク表示品の優先購入	総務部門 山崎		
	○再生紙の使用	総務部門 山崎		
化学物資排出量削減	○有害物質を含んだ建材や資材の使用制限	工務部門 起塚		
環境に配慮した工事	○省エネ住宅の提案	営業部門 嶋川		
	○再生資材の優先使用	工務部門 起塚		
	○工事中の騒音や粉塵対策	工務部門 起塚		
	○排出ガス対策型建設機械の使用推進	工務部門 起塚		
社会貢献活動	○河沿い等の清掃活動の実施	環境事務局 丁野誠		
	○道路沿いの花壇の清掃及び花の植替	環境事務局 丁野誠		
	○定期的な献血活動	環境事務局 丁野誠		
業務の効率化	○5 S の徹底	総務部門 山本		
	○業務改善提案書	環境事務局 丁野誠		

8. 環境経営目標の実績 当年度

(1) 当年度実績

項目	総量・原単位	単位	目標		実績		目標値／実績値	評価
			基準年 2021年度 2021.7～2022.6	2023年度 2023.7～2024.6	2023年度 2023.7～2024.6	2023年度 2023.7～2024.6		
売上高		百万円	1,517	1,300	1,236			
燃料使用量								
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	22,037	21,596	18,512	117%	○	
	原単位	(ℓ/百万円)	14.53	16.61	14.98			
灯油使用量	総量	(ℓ)	66	65	0			○ 使用なし
	原単位	(ℓ/百万円)	0.04	0.05	0.00			
LPG使用量	総量	(m ³)	0.2	使用量が少ないため2～3m ³ の間で納めるようにする	0.0			○ 使用なし
	原単位	(kg/百万円)	-	-	-			
電力使用量	総量	(kWh)	43,447	42,578	41,505	103%	○	
	原単位	(kWh/百万円)	28.64	32.75	33.58			
CO ₂ 排出量	総量	(kg-CO ₂)	72,522	71,072	61,666	115%	○	
	原単位	(kg-CO ₂ /百万円)	47.81	54.67	49.89			
水使用量	総量	(m ³)	175	172	360	48%	×	
	原単位	(m ³ /百万円)	0.12	0.13	0.29			
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	485	475	392	121%	○	
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.37	0.32			
産業廃棄物排出量	総量	(t)	2,276	2,230	1,109.5	201%	○	
	原単位	(t/百万円)	1.50	1.72	0.90			
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	96	96	96.2	100%	○	
グリーン購入量	総量	(%)	92	65	78	120%	○	
環境に配慮した工事	総量	(%)	100	100	100	100%	○	
環境美化活動	総量	(回)	25	25	12	48%	×	

・電力のCO₂発生量については、電気事業者別のCO₂排出係数（2020年度実績）

（2022年1月7日公表）の四国電力の調整後排出係数0.574（kg-CO₂/kWh）を使用した。

・グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合（%）

・評価は総量にて行う。「○」、「△」、「×」で評価する。（○：100%、△：90%以上、×：90%未満）

<環境経営目標未達成等理由>

- ガソリン使用量は遠方の現場が少なかった事に加え小工事の工事件数も減少した為減
- 電力使用量は目標達成。現場での使用量は少なかったが事務所使用量が増加
- 産業廃棄物排出量は解体工事がなく目標達成
- 環境美化活動は天候に恵まれず目標未達

9. 環境経営計画の取組結果とその評価

期間：2023年 7月 ～ 2024年 6月

項目		活動内容	担当者	取組結果	評価
C O2排出量削減	燃料使用量削減	○排出ガス対策型建設機械の使用推進	工務部門 起塚	現場にて使用を徹底、標準化とし、徹底されている。	○
		○車両の軽量化（無駄な積載をしない）	工務部門 起塚	実行できている	○
		○重機のエコモード運転の実施	工務部門 起塚	全車両に掲示し実施されている。	○
		○エコドライブの徹底	工務部門 起塚	努力はしている。	○
		○車両の定期点検整備の実施	工務部門 起塚	毎週火曜日に車両点検表にて点検を実施している。	○
	電力使用量削減	○昼休憩時の電気消灯の徹底	総務部門 山本	不要・不在時の消灯はできている	○
		○クールビズ・ウォームビズ活動	総務部門 山本	徹底されている。	○
		○空調の適温化の徹底(冷房28℃暖房20℃)	総務部門 山本	温度設定を提示、徹底されている。	△
		○O A 機器の不在時電源OFF	総務部門 山本	PC設定により自動電源OFFするようにしている。	○
		○照明器具・エアコンフィルターの定期的な清掃	総務部門 山本	定期的に実施されている。	○
		○部分的な照明の使用	総務部門 山本	配線工事により、ブロックごとに点灯するようにしている。	○
		水使用量削減	○食器のまとめ洗い	総務部門 山本	洗い桶へまとめて食器を洗うよう徹底している。
○漏水点検	総務部門 山本		実施されている。	○	
○給湯室の蛇口を節水型に変える	総務部門 山本		変更している。	○	
○蛇口の閉め忘れ等の確認	総務部門 山本		徹底されている。	○	
廃棄物削減	一般廃棄物	○電子化による紙使用の低減	総務部門 山本	8割程度電子化が進んでいる	○
		○裏紙への再利用(社内文書のみ)	総務部門 山本	専用トレイも設置し徹底されている。	○
		○分別化の徹底	総務部門 山本	ゴミの分別表示を行い、徹底されている。	○
		○再生紙の使用	総務部門 山本	今後、再生紙の購入をさらに増加させる。	○
	産業廃棄物	○廃棄物の分別の徹底	工務部門 起塚	各現場責任者により徹底されパトロールによりチェックしている。	○
		○余剰がなるべく出ないような発注	工務部門 起塚	各現場責任者により徹底され、上長が確認している。	○
		○産業廃棄物保管場所	工務部門 起塚	現場内での表示が徹底されている。	○
		○多量排出事業者 産業廃棄物処理計画書の提出	工務部門 起塚	2024年6月24日提出済み。	○
グリーン購入	○エコマーク表示品の優先購入	総務部門 山本	徹底されている。	○	
	○再生紙の使用	総務部門 山本	今後、再生紙の購入をさらに増加させる。	○	
	○環境ラベルの認定などの製品を積極的に購入している	総務部門 山本	実施されている。	○	
化学物質排出量削減	○有害物質を含んだ建材や資材の使用制限	工務部門 起塚	対象資材についてはF☆☆☆☆又は同等の大臣認定品の使用を徹底している	○	
環境に配慮した工事	○省エネ住宅の提案	営業部門 嶋川	省エネ住宅・設備の一覧表ファイルを作成し、管理を行っている。	○	
	○再生資材の優先使用	工務部門 起塚	現場責任者により徹底、発注依頼書等により確認している。	○	
	○工事中の騒音や粉塵対策	工務部門 起塚	現場責任者により徹底、安全パトロールにより確認している。	○	
	○排出ガス対策型建設機械の使用推進	工務部門 起塚	現場にて使用を徹底、標準化とし、徹底されている。	○	
社会貢献活動	○河沿い等の清掃活動の実施	環境事務局 秋澤	実施できている。	△	
	○道路沿いの花壇の清掃及び花の植替	環境事務局 秋澤	2024年4月10日 実施	○	
	○定期的な献血活動	環境事務局 秋澤	2024年4月11日 実施	○	
業務の効率化	○5Sの徹底	総務部門 山本	事務所内及び現場事務所へも掲示し、チェックシートにより確認している。	○	
	○業務改善提案書	環境事務局 秋澤	面接時各自提出書類へ記入あり。	○	

○総評

※評価：○できた、△改善の余地がみられる、×できていない
担当部署の責任者が判定

- ガソリン使用量は遠方での現場が少なく使用量を抑える事が出来たので、引き続き削減に努める。
- 産業廃棄物量は前年度に比べ、大規模解体工事がなく排出量は大幅減。受注案件で大きく排出量は左右される。
- 河川清掃が目標の半分しか実施出来ておらず、天候にも左右されるが月に2回ペースを目標に実施していきたい。

9.環境活動の取組状況

(1) 活動状況（本社事務所）

① こうち脱炭素チャレンジ！

脱炭素化へ向けた取り組みを進めています。
毎月の電気料金の請求書をシステムにアップロードしCO2排出量を可視化。
自社の現状を見える化

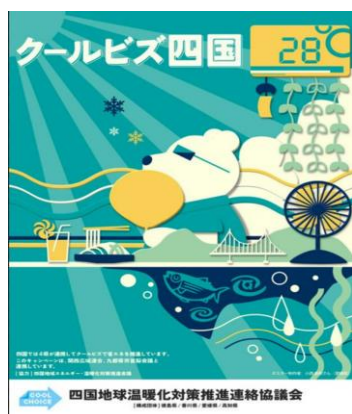


② 一般廃棄物排出量の削減

- ・毎月の請求書管理に電子請求書システムを導入
- ・社内回覧文書もクラウドを活用する事で大幅なペーパーレス化に加え業務の効率化を図っています



③ 「クールビズ四国」「ウォームビズ四国」への参加



地球温暖化対策を推進する観点から、4県連携事業である「クールビズ四国」に参加しています。
社内にポスターを掲示し軽装にして厚い夏を乗り越えています。

④ 電気使用におけるCO2排出量削減



事務所内の照明は昼休憩時は消灯を徹底し不要時にはこまめに切るようにしています。
空調も温度設定に気を付け日々節電に取り組んでいます。



(2) 活動状況（工事現場）環境にやさしいCLT建築

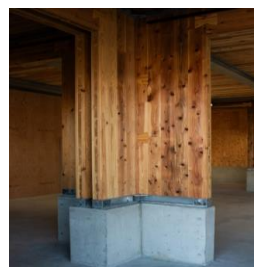
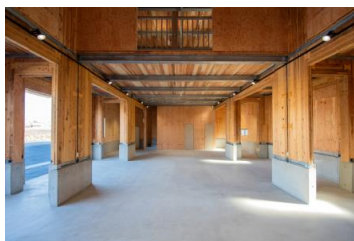
CLTとはひき板（ラミナ）を並べた層を板の方向が直交するように重ねて接着した大判パネルです。

CLTはコンクリートや鉄に比べて木材は製造する時のエネルギー量が少なくCO₂の発生が抑えられます。また、CLTパネルは再利用が可能となり、ほとんどの接合部がボルト・ドリフトピンで接合されているため、構造躯体にダメージを与えることなく解体が可能です。

弊社ではCLTを活用した木造建築を推進しており、CO₂排出量の抑制や資源再利用の観点から循環型社会へ適合していきます。

2023年度は3棟施工！！

1. 響建設自社倉庫をCLT工法で建築



2. 集合住宅（高知市朝倉）



3. 集合住宅（高知市秦南町）



活動状況（安全大会）

■安全大会

弊社では過去に事故があったことを再度思い出し、安全の大切さを社員全員で再認識するために毎年6月6日に「安全大会」と表し、祈願を行っています。

（写真：令和6年6月6日実施時）



活動状況（社会貢献活動）

① 清掃活動

■鏡川の河川敷を清掃

2014年から毎週火曜日に行っています。雨天時や河川工事時期はできないこともありますが、本社事務所の前の河川敷を中心に清掃活動を行っています。最近ではかなり広範囲の清掃を行っています。



② 献血活動



■献血活動

年に1回献血活動を行っています。
高知県では献血のみでは県内の必要とする血液が足りないということもあり、少しでもと思う気持ちで行っています。
今後も引き続き活動していきます。

■春の地区花いっぱい運動

年に1回地区の街路の清掃・植花活動に参加しています。
花や木にあふれる良好な景観は、地域の方にとっても潤いや安らぎを感じる心の拠り所となります。今後も継続して活動を継続していきます。



③ SDG s への取組



令和3年10月22日登録



■SDG s への取組

建設業界は、人々の生活の基盤である住環境の提供やまちづくり、経済活動の基盤であるインフラ構築・整備、防災、衛生、省エネルギー、環境保護など、事業そのものがSDGsと直結する業界であるが故に、社員全員でSDGsを取り組んでいます。

10. 環境経営目標・次年度

(2024年度)

(1) 単年度目標

(2024年度目標の場合)

-3%

項目	総量・原単位	単位	基準年 2021年度 2021.7～2022.6	2024年度 目標 2024.7-2025.6
売上高		百万円	1,517	1,300
燃料使用量				
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	22,037	21,376
	原単位	(ℓ/百万円)	14.53	16.44
灯油使用量	総量	(ℓ)	66	64
	原単位	(ℓ/百万円)	0.04	0.05
LPG使用量	総量	(m ³)	0.2	使用量が少ないため2～3㎡の間で納めるようにする
	原単位	(kg/百万円)	-	-
電力使用量	総量	(kWh)	43,447	42,144
	原単位	(kWh/百万円)	28.64	32.42
CO ₂ 排出量	総量	(kg-CO ₂)	72,522	70,347
	原単位	(kg-CO ₂ /百万円)	47.81	54.11
水使用量	総量	(m ³)	175	170
	原単位	(m ³ /百万円)	0.12	0.13
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	485	470
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.36
産業廃棄物排出量	総量	(t)	2,276	2,208
	原単位	(t/百万円)	1.50	1.70
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	96	94.3
グリーン購入	総量	(%)	92	65
環境に配慮した工事	総量	(%)	100	100
環境美化活動	総量	(回)	25	25

- ・基準値の値は2021年度(2021年7月～2022年6月)の実績値とする
- ・2024年度目標値は、2021年度から-3%とする。
- ・社会貢献活動は、2回/月以上とし、年間24回以上とする。
- ・電力のCO₂発生量については、電気事業者別のCO₂排出係数(2020年度実績)
(2022年1月7日公表)の四国電力の調整後排出係数0.574(kg-CO₂/kWh)を使用した。
- ・グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合(%)

(2) 中長期目標

項目	総量・原単位	単位	2021年度 実績(基準年)	-4%	-5%	-6%
				2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
売上高		百万円	1,517	1,300	1,300	1,300
燃料使用量						
ガソリン使用量	総量	(ℓ)	22,037	21,156	20,935	20,715
	原単位	(ℓ/百万円)	14.53	16.27	16.10	15.93
灯油使用量	総量	(ℓ)	66	63	63	62
	原単位	(ℓ/百万円)	0.04	0.05	0.05	0.05
L P G使用量	総量	(m ³)	0.2	使用量が少ないため2～3m ³ で納めるようにする		
	原単位	(kg/百万円)	-	-	-	-
電力使用量	総量	(kWh)	43,447	41,709	41,275	40,840
	原単位	(kWh/百万円)	28.64	32.08	31.75	31.42
CO ₂ 排出量	総量	(kg-CO ₂)	72,522	69,622	68,896	68,171
	原単位	(kg-CO ₂ /百万円)	47.81	53.56	53.00	52.44
水使用量	総量	(m ³)	175	168	166	165
	原単位	(m ³ /百万円)	0.12	0.13	0.13	0.13
一般廃棄物排出量	総量	(kg)	485	466	461	456
	原単位	(kg/百万円)	0.32	0.36	0.35	0.35
産業廃棄物排出量	総量	(t)	2,276	2,185	2,162	2,139
	原単位	(t/百万円)	1.50	1.68	1.66	1.65
産業廃棄物再資源化率	総量	(%)	96	全期間において90%以上		
グリーン購入	総量	(%)	92	全期間において60%以上の購入		
環境に配慮した工事	総量	(%)	100	100	100	100
社会貢献活動	総量	(回)	25	2回/月以上とし、年間24回以上		

- ・2021年度(2021年7月～2022年6月)実績値を基準とする
- ・2025年度-4%、2026年度-5%、2027年度-6%を目標値として設定する。

10. 次年度の取組内容

環境経営計画・次年度

(2024年度)

期間： 2024年 7月 ～ 2025年 6月

項目		活動内容	担当者	期間
C O 2排出量削減	燃料使用量削減	○排出ガス対策型建設機械の使用推進	工務部門 起塚	2024年 7月 ～ 2025 年 6月
		○車両の軽量化（無駄な積載をしない）	工務部門 起塚	
		○重機のエコモード運転の実施	工務部門 起塚	
		○エコドライブの徹底	工務部門 起塚	
		○車両の定期点検整備の実施	工務部門 起塚	
		※建設現場の作業規模に応じた建設機械を用いる	工務部門 起塚	
	電力使用量削減	○昼休憩時の電気消灯の徹底	総務部門 山本	
		○クールビズ・ウォームビズ活動	総務部門 山本	
		○空調の適温化の徹底(冷房28℃暖房20℃)	総務部門 山本	
		○O A 機器の不在時電源O F F	総務部門 山本	
		○照明器具・エアコンフィルターの定期的な清掃	総務部門 山本	
		○部分的な照明の使用	総務部門 山本	
		※使用時以外の無駄なコンセントを抜く（待機電力減）	総務部門 山本	
水使用量削減		○食器のまとめ洗い	総務部門 山本	
		○漏水点検	総務部門 山本	
		○給湯室の蛇口を節水型へ替える	総務部門 山本	
		○蛇口の閉め忘れ等の確認	総務部門 山本	
廃棄物削減	一般廃棄物	○電子化による紙使用の低減	総務部門 山本	
		○裏紙への再利用(社内文書のみ)	総務部門 山本	
		○分別化の徹底	総務部門 山本	
		○再生紙の使用	総務部門 山本	
	産業廃棄物	○廃棄物の分別の徹底	工務部門 起塚	
		○余剰がなるべく出ないような発注	工務部門 起塚	
		○産業廃棄物保管場所	工務部門 起塚	
		○多量排出事業者 産業廃棄物処理計画書の提出	工務部門 起塚	
グリーン購入		○エコマーク表示品の優先購入	総務部門 山本	
		○再生紙の使用	総務部門 山本	
		○環境ラベル認定などの製品を積極的に購入している	総務部門 山本	
		○地域産の木材などを積極的購入し使用	工務部門 起塚	
化学物資排出量削減		○有害物質を含んだ建材や資材の使用制限	工務部門 起塚	
環境に配慮した工事		○省エネ住宅の提案	営業部門 嶋川	
		○再生資材の優先使用	工務部門 起塚	
		○工事中の騒音や粉塵対策	工務部門 起塚	
		○排出ガス対策型建設機械の使用推進	工務部門 起塚	
社会貢献活動		○河沿い等の清掃活動の実施	環境事務局 丁野誠	
		○道路沿いの花壇の清掃及び花の植替	環境事務局 丁野誠	
		○定期的な献血活動	環境事務局 丁野誠	
業務の効率化		○5 S の徹底	総務部門 山本	
		○業務改善提案書	環境事務局 丁野誠	

11.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守状況	確認日
廃棄の処理及び清掃に関する法律	第3条	事業者の責務 事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
	第7条の13項	○一般廃棄物収集運搬基準に従った収集運搬表示、書面備付義務	必要時	総務	○	2024年6月30日
	第12条	産業廃棄物の事業者の処理 産業廃棄物の委託契約	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
	第12条の10、11項	多量排出事業者（年間1,000t以上）の計画の都道府県知事への提出・報告	必要時	総務	○	2024年6月29日
	第12条の三	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の交付	廃棄物排出時	現場担当者	○	2024年6月30日
	第12条の三7項	マニフェスト交付状況報告書の作成及び都道府県知事（高知県知事）への提出	年1回 毎年6月末	総務	○	2024年5月29日
	規則第8条	○保管場所の表示 見易い箇所に掲示板を設置 （縦60cm以上×横60cm以上）	必要時	現場担当者 総務	○	2024年6月30日
資源の有効な利用の促進に関する法律 （資源有効利用促進法）	第4条	土砂、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、木材等の減量化及びリサイクル	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律 （建設リサイクル法）	第5条	○建設資材廃棄物の発生抑制、分別解体等及び建設資材廃棄物の再資源化等費用の低減努力 ○建設資材廃棄物の再資源化により得られた建設資材を使用する努力	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
	第9条 第10条	○分別解体等の実施 解体：床面積80m ² 以上 新築・増築：床面積500m ² 以上 ○対象建設工事は7日前までに都道府県知事に届出	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
騒音規制法	第14条	○特定建設作業の実施の届出 （建設作業開始7日前までに市町村長に届出）	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
振動規制法	第14条	○特定建設作業の実施の届出 （建設作業開始7日前までに市町村長に届出）	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
大気汚染防止法 （解体工事）	第18条の17	解体等工事受注者は、石綿使用の有無について事前に調査し、発注者へ調査結果を書面で説明するとともに説明するとともに、その結果等を解体等工事場所へ掲示	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
労働安全衛生法	第10条 第28・88条	労働者の安全又は衛生の為の教育の実施 建築物等の解体などの作業での労働者の石綿・防露防止や工事計画の届出	必要時	現場担当者	該当無し	2024年6月30日
建築基準法	第28条の2	○石綿含有建材の使用禁止 （内装仕上材、換気設備の適正使用）	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
道路法	第7条2 第47条	○（仮囲、足場等）道路占用許可の申請 ○特殊車両通行許可の申請	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
道路交通法	第77条	○道路使用許可の申請 （コンクリート打設の一時使用道路の使用許可）	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守状況	確認日
消防法	第 8 条	○防火管理者の選任、消防計画の作成 (遅滞なく所轄消防長又は消防署長に届出)	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
	第 3 1 条	○少量物危険物貯蔵の消防署への届出 (指定数量の 1 / 5 以上指定数量未満の 危険物貯蔵)	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
	第 1 7 条の 3 の 2	○消防用設備等設置届書の消防署への提出	着工 1 0 日前	現場担当者	○	2024年6月30日
フロン類の使用の合理化及び 管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	第 5 条	○簡易点検の実施 第1種特定製品エアコン	1 回以上 / 3 ヶ月	現場担当者	○	2024年6月30日
浄化槽法	第 1 0 条 第 1 1 条	○1回 / 2 か月の浄化槽の保守点検、年 1 回の清掃実施 ○年 1 回の水質検査実施	保守 1 回 / 2 か月 清掃 年 1 回 水質検査 年 1 回	総務	○	2024年6月30日
下水道法	第 1 0 条	○下水道に下水を流入させる為の排水管、 排水渠等の設置	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
特定化学物質の環境への排出量の 把握及び管理の改善の促進に関する法律	第 5 条	○化学物質の排出量、使用量の把握	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日

○：遵守している

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

2023年 7月より 2024年 6月まで、環境関連法規等への違反、訴訟及び外部からの苦情・要望等はありませんでした。

環境関連法規等の取りまとめ表
(条例)

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守状況	確認日
高知県環境基本条例	第 6 条	○事業者の責務 公害防止、自然環境保全、廃棄物の適正処理	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
高知県清流保全条例	第 2 条	○事業者の清流保全の努力	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
高知市環境基本条例	第 5 条	○事業者の責務 公害防止、自然環境保全、廃棄物の適正処理	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日
高知市火災予防条例	第 3 1 条	○少量物危険物貯蔵の消防署への届出 (指定数量の 1 / 5 以上指定数量未満の 危険物貯蔵)	必要時	現場担当者	○	2024年6月30日

○：遵守している

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規機

2023年 7月より 2024年 6月まで、環境関連法規等への違反、訴訟及び外部からの苦情・要望等はありませんでした。

代表者
丁野 敏明

12.代表者による全体評価と見直し・指示

■定期見直し

見直しに必要な情報				代表者による見直し	
環境管理責任者の報告及び改善提案				変更の必要性の有無・指示事項	
【取組状況の評価結果】				【環境経営方針】	
①環境関連法規制等の遵守状況				変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
・環境関連法規への違反はありません					
なお関係当局より違反などの指摘は、過去3年間はありません。					
②問題点の是正処置及び予防処置の状況				【環境経営目標・環境経営計画】	
・環境目標の未達成項目はあるが、応急対応、是正処置は今回特に対応しません。				変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
<改善提案>					
・取組結果として、各項目とも定着して実施しています。					
【環境経営目標・環境経営計画の達成状況】				産廃物の増加は解体工事の受注によるもので、一過性の増加である。社会貢献活動も積極的に活動できた。今後も継続していきたい。エコアクションの取組みを継続する。	
目標項目	目標値	経営計画	コメント		
	達成状況	達成状況	(目標値、活動計画に対するコメント)		
電力の削減	○	○	目標達成。継続実施。	【環境経営実施体制】	
ガソリンの削減	○	○	目標達成。継続実施。	変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
灯油の削減	○	○	目標達成。継続実施。	環境経営に関する役割・責任・権限は有効に機能しており現時点での変更の必要性はない。	
一般廃棄物の削減	○	○	目標達成。継続実施。		
産業廃棄物の削減	○	○	目標達成。継続実施。	【環境経営システム】	
節水	×	○	目標未達。現場で過多	変更の必要性： ☐ 有 ☒ 無	
グリーン購入の促進	○	○	目標達成。継続実施。	システムは有効に機能しており現時点で変更ない。	
環境に配慮した工事	○	○	目標達成。継続実施。		
社会貢献活動	×	○	目標値大幅未達。		
<改善提案>					
【周囲の変化の状況】				【総括】（環境経営レポートの代表者による全体の評価と見直しの欄に記載）	
①外部コミュニケーション記録より				2023年7月1日から2024年6月30日の年度であります55期では、500万以上の大工事が20件となり、内訳として解体や撤去工事を伴う改修工事が10件、新築工事は10件となっています。	
・受付内容など特にありません。				今期も解体資材のリサイクルや産業廃棄物の処理量の目標の立て方に工夫を要しています。	
②環境関連法規制等の動向他				大型工事の場合、現場事務所を設置するので、これも事務所として使用する電力や、解体工事の時に散水による水道の使用量が変動しやすい。今期は解体が伴う工事は高知大学(岡豊)総合研究棟Ⅶ(医学系)改修工事が対象となり、新築工事はときみつる會堂殿新築工事・(仮)朝倉集合住宅新築工事・(仮)秦南町集合住宅新築工事が対象となります。	
・問題もなく、遵守されている。					
<改善提案> 特になし					
代表者が自ら得た情報					
今回も総括で54期の産廃排出の状況を記入しましたが、昨年度同様に公共工事は国土強靱化や長寿命化、そして官民の施設を木造化という法制化もなされ、新たに炭素排出量ゼロを目指す方針が示されました。					
更に公共の建物や民間の施設や住宅でも建物の老朽化や空き家が増加の一途で、新築から既存建物の解体や建替え及び改修工事の方に明らかに変わっていています。					
引き続きZEHの家の施工でBELS5☆を確保し、太陽光発電設備を伴わない家でZAH相当の高気密高断熱・省エネ化の施工もあり、予算が許される住宅では提案をしている中で、当社の現場技術者が施工のノウハウを蓄積して、新たな住宅の工事で設計と施工に活かしています。					
2021年4月に竣工した自社の3階建て集合住宅に続き、CLTパネルを構造体の床と壁に使った、自社の木造2階建ての倉庫を2024年1月に、木造3階建ての集合住宅を2024年3月に竣工させる事ができた。トータルの実績として集合住宅が4棟、倉庫が1棟となった。					
木材は高知県を初め日本全国に豊富な資源で、その活用と衰退している林業の活性化に、国の方針として公共施設の木造化を進めています。					
3棟目、4棟目の建物も更に適した構造で、設計の一環として行った消費エネルギー計算による数値では、高気密高断熱の建物であると示されました。					
自社の事務所の建物は鉄筋コンクリート造で3、4階は集合住宅になっていて、その1室とCLT造の南側の自社と2棟目に竣工した集合住宅に、クラウド温湿度計を設置して室内の温度と湿度の変化を測定してみた。					
1年間の結果は温度については設置場所や居住者の生活環境により、違いの変化は推察出来なかったが、湿度に関してはCLT工法の木造は年間を通して変動が少なかった。					
木材の調湿機能の効果が出ているようで、良質な室内環境が保たれている結果が表れています。					
高知県内でCLTパネルを使った民間による集合住宅の建築は、当社が先駆的に取り組んでいるようで、今後もCLTパネルを使った非住宅や集合住宅の設計費に高知県の、そして林野庁がJAS構造物利用拡大事業やCLT建築実証事業などの助成金制度があり、それらを活用して民間の施設に木材の活用を広げて、SDGsや脱炭素社会を目指す活動に繋げていきます。					